

紙面から

教育随想

「過剰・退屈・徒勞の排除を」

拓殖大学客員教授

岡崎市市政顧問

神谷 満雄氏

羅針盤

教育観が変わる

特殊教育指導員 武田 正道

この人に聞く

行政相談委員 林 明氏

特集

郷土の歴史を伝える

岡崎市郷土館

ふれあい

一冊の本

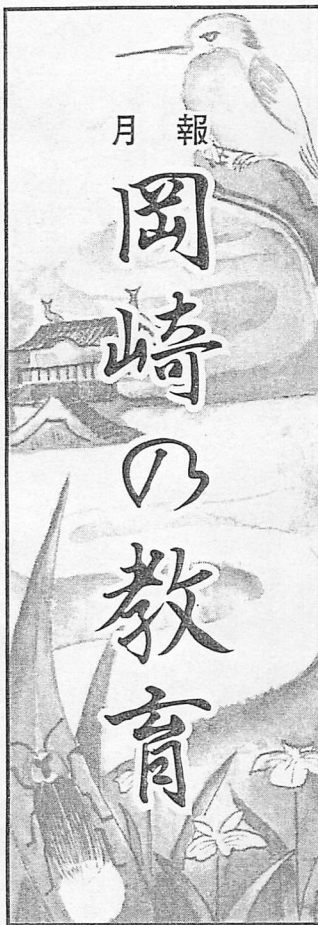
竜海中学校 平川 誠

師弟同行

前河合中学校長

井田小学校 柴田 修一
丹羽 郁人

フォト・ヒストリー岡崎の教育
尋常科卒業生(明治四十四年)



2月号

平成12年2月1日

発行/編集
岡崎市教育委員会

今月の学校紹介
～常磐東小学校～



ふれあい



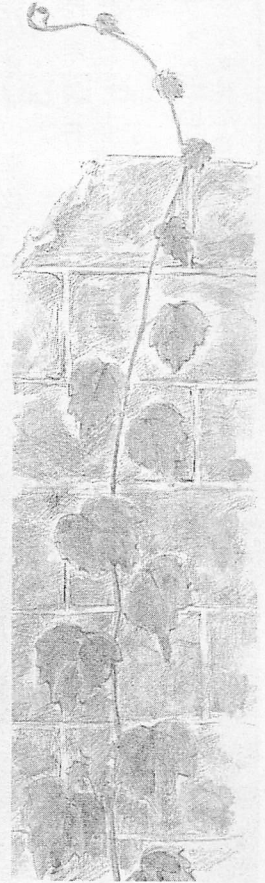
- 教育随想 -



過剰・退屈・徒労の排除を

拓殖大学客員教授
岡崎市市政顧問

神谷満雄



かたい話を辛口で書きたい。あえて、ドン・キホーテに倣う。諸賢、しばし目をとめて、お笑いあれ。

平成十一年暮れの市議会で、いわゆる「岡崎21世紀プラン」が審議された。当然、小中学校教育についても、現況と課題が記され、これから何をやっていきたいかが示されている。私はこの総合計画づくりに深くかかわったが、地域の子どもたちにたいする教育のあり方が、明晰には見えてこなかった。

その背景には、私の能力をはるかにこえるこの国の教育問題の複雑さと混迷とがある。しかし同時に、自分たち、家族、地域などがその主要構成員である日本という共同体の持

続的繁栄のために、地域の子どもたちをどのように助成するのか、関係者の多くが考えあぐねている、という状況があるのではないか。

「地域社会や家庭の教育機能の低下が進み」（以下のかっこ内はいずれも私の意見の注記。保護者の生涯教育を地域の学校で行う）、子どもたちが「自然に親しむ機会が減少し」（増やすプロジェクトをくむ）、「地域社会とのつながりが希薄になっていく」（強める方法はいくらでも考えられる）、と指摘し、「心豊かに、たくましい人間形成を図るため」（いまの制度のままでは実際には逆方向に進んでしまう）、「教育内容の充実を図り」（これ以上退屈させな

い方がいい）、「ゆとりある環境、健康で安全な学校生活をおくる環境整備につとめる」（過剰を排除することからはじめるべきだ）。計画にはかぎかつこで引用したような現況が的確に記されているが、問題の核心は、これらのことが「非行や不登校、いじめなどが大きな社会問題になっている」ことと、どのように結びついているかである。

私が考え、提案したいことは、過剰と退屈と徒労とを教育現場から排除する方策を勇氣をもって実行する、ということだ。人びとの日常が祝祭化している豊かな社会の過剰のなかで、子どもたちは現在の集合教育への参加に退屈しきっている。多くの先生方は徒労な葛藤に気がつかない、畏敬されることもなく、力を浪費している。一方では、教育不適合者の雇用問題は容易に解決しそうにない。字数の制約があるので、これから続けたい中身は、私が同感している二人の教育時評、『経済人類学の眼』（栗本慎一郎、青土社、一九八二年、百ページ前後に所収）と『不惑の雑考』（岸田秀、文春文庫、一九九三年、八一ページと一九一ページ）とを参照していただけたら、と願う。（かみや みつお）



教育観が変わる

特殊教育指導員

武田正道

特殊学級にとつて、生活単元学習（以後、生単と略）は、その学習の成立意図から教育の柱となつていく。生単は、子供の生きる力を高めるためにある。実生活の中にある課題を見つけることが初めにある。当然、その学習課題を解決するには、教科を合わせた学習が必要になる。学習の楽しさがそこに必ずあり、子供は意欲を持って学習をする。結果として、学級経営の活力となる。そのような生単は、総合学習の概念と同一の考えを持つ。そして、歴史的に見れば、先輩格の学習である。T先生とN先生の生単、「プレゼントしよう、クリスマスリース」は、印象に残る授業であった。導入部分をT先生、製作活動部分をN先生が主な指導を受け持ち、T・Tの形をとる授業であった。

ふるさとシリーズ

この人に聞く



行政相談委員

林 明 氏

税理士の林さんは、昨年十月行政相談委員としての長年の功績で、総務庁長官表彰を受けられた。

まず、行政相談委員とはどんな仕事なのかをお聞きした。

「国や県、市町村の行政全般に関する苦情や不満を承り、手続きの遅れ、要望などを聞いて対応し、中立の立場で民主的な行政運営に寄与するのが私たちの役割です。私は、十八年前の昭和五十六年四月総務庁からの委嘱を受けました。現在、岡崎市の委員は私を含めて六人です。」

市民相談として市の自治課では毎日行政相談を行っている。林さんたち行政相談委員が出向くのは、月に二回、そして、毎年十月開設される甲山会館での「くらしと行政よろず相談所」である。そこでは多くの相談に携わってみえる。

「行政について十分理解されていないことが不平につながったり、権利の主張ばかりで満足のいかないことが不満になったりしています。ですから、私たちは、まず話をよく聞き、案件について調べ、事実関係をはっきりさせることから始めます。それからどこの官庁へ持つていくかを判断し、市民の皆さんに代わって働きかけるのです。」

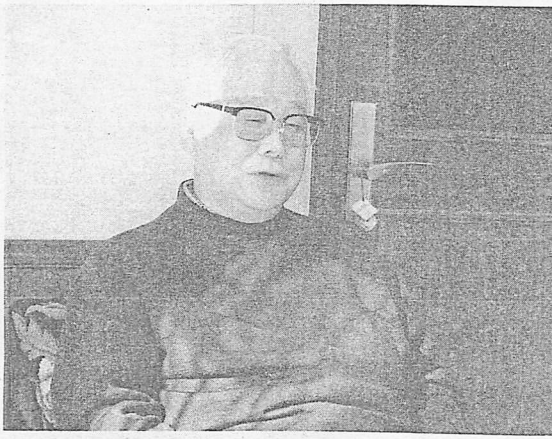
昨年、歩行が危険な宇頭踏切の拡幅の要望があった。林さんたち相談委員による働きかけのおかげで、十一年度中に歩道を拡幅する方向で踏切改良が実施されることになった。相談を受けるだけではなく、その後の対処にかなりの時間や労力を費やすに違いない。

「相談内容も幅広く、常に勉強をしておかなければ対処することはできません。四月からの介護保険についての勉強会もしています。」
本職である税理士の仕事をする一

方で、相談委員の役割を果たす御苦労がうかがわれる。

「行政の各諸機関の担当窓口が親切に説明してあれば相談件数も減るように思います。分からない人に分かるようにかみ砕いて説明する温かいアドバイスが必要であるといつも思っています。何事にも真心を忘れてはいけません。」
林さんの言葉からは、私たちの姿勢にも通じるものがあり、市民のよいが暮らしを願う林さんの熱い思いが伝わってくる。

氏名 はやし あきら
生年月日 大正十四年一月四日
住 所 明大寺町字栗林二の八



アイデアを発表し、製作の目的を確認し、製作意欲を高め、見通しを持たせる、T先生。

それを受け、N先生は、子供に活動意欲を与えそうなくつかの材料を用意し、その使い方を教えた。スプレーには、色の飛び出る方向を確認させるためのシールが貼られていた。授業終了時に、子供は、作りかけの飾りを前に残念そうな顔を見せた。もっと作りたい。製作は、待ち遠しい時間となった。

T先生は、製作意図を理解しにくい子供とその母親と、同僚の教師の助けで、休日にリース材料の採集を行った。リース製作へ子供の気持ちが高まるのを肌で感じ、リースの見本づくりに熱が入った。

T先生は、授業の検討会で、「この授業をするにあたり、自身の教育観が変わっていくのを感じた」という主旨の感想を話された。

子供の変容にうれしさを感じ、教師の側も改めて教育を問い直す。生単の原点を見る一時間であった。

【推薦する専門書】

『のび太・ジャイアン症候群2』

—これで子どもが変わる—主婦の友社
『入門・教師のためのやさしい精神神経医学』
学研

郷土の歴史を伝える

岡崎市郷土館

— 国の重要文化財指定 —



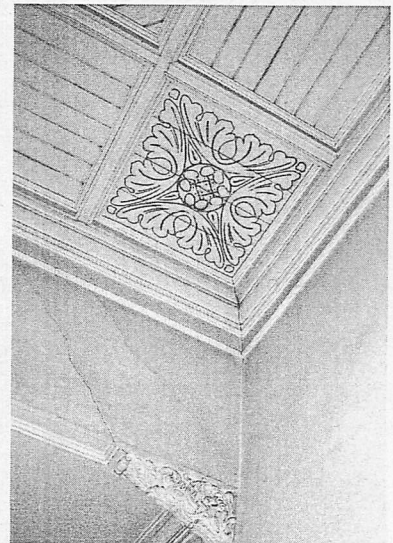
▲ 初期の郷土館（旧額田郡公会堂）

朝日町の国道一号線沿い、木立に囲まれて建つ岡崎市郷土館。瓦葺きでありながら、随所に、洋風の造りを持つ外観は、交通量の激しい国道とは裏腹に落ち着いた雰囲気を感じさせる。昨年十二月一日、この郷土館とその収蔵庫二棟が国の重要文化財に指定された。

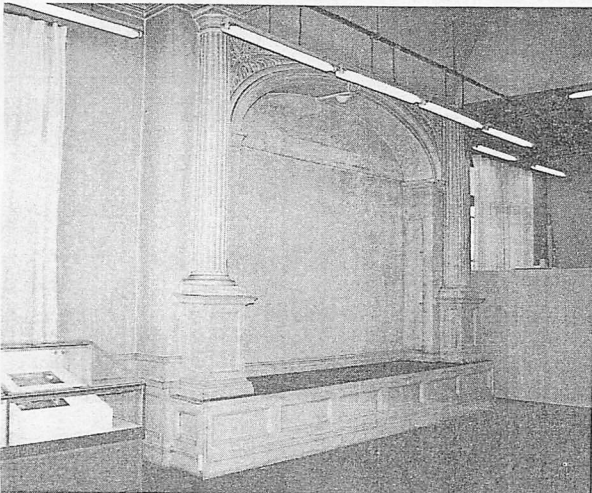
この二棟は、大正二年、当時額田郡であったこの地に、額田郡公会堂と物産陳列所として建設されたものである。市制施行後、それぞれ岡崎市中央公会堂と商品陳列所・拳闘空手道場として使用された後、昭和四十四年以来、郷土館とその収蔵庫として生まれ変わり、郷土の歴史を今に伝えている。

本館には、正面ポーチ上にルネサンス様式の手すり飾りや半円形の切妻に施された彫刻があり、講堂内の天井や壁面にも洋風の造りを取り入れようとした熱意がにじみ出ている。

また、収蔵庫は、四ツ葉のクローバー型の花窓で外観を特色づけており、同じ年に建てら



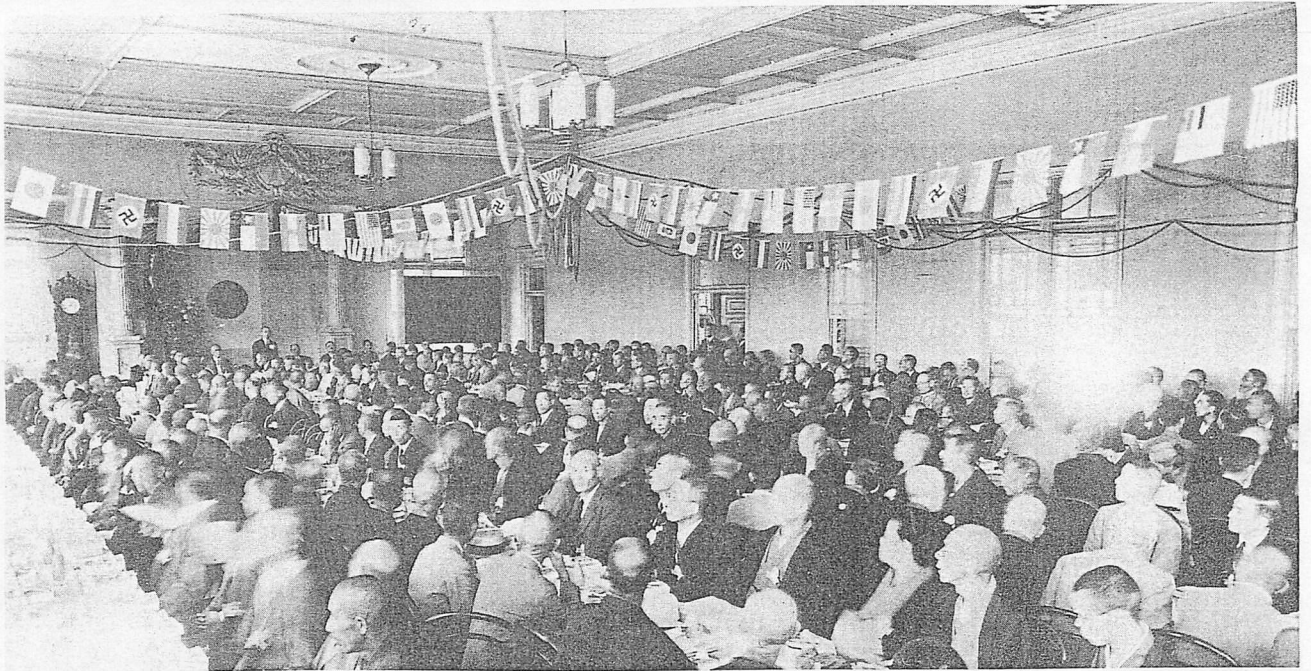
▲ 細かな意匠が施された天井



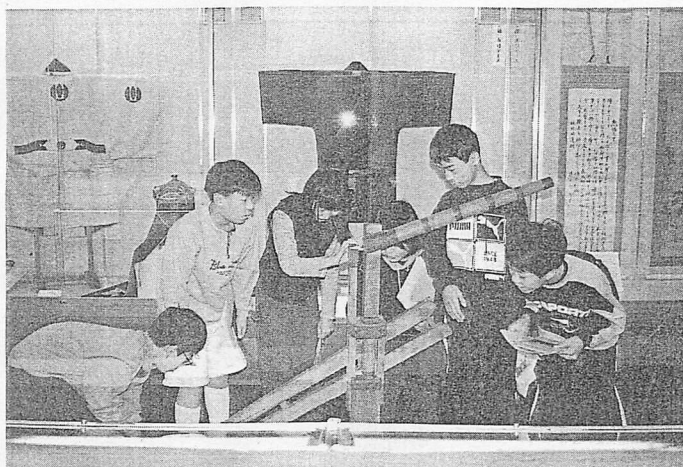
▲ 両脇を円柱で飾られた演壇



▲ 壁面上部を飾る漆喰の浮き彫り



▲ 市役所庁舎竣工祝賀会の会場（昭和15年）



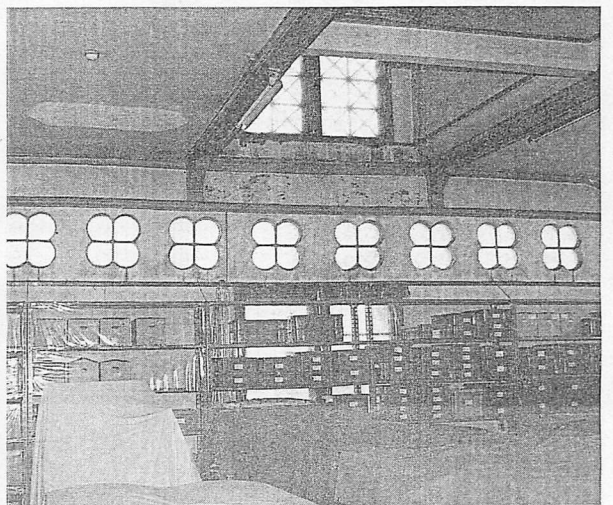
▲ 市の考古・民俗資料などの展示（現在）

れた本館とはかなり異なった趣となっている。施工はすべて地元の工匠が行い、郷土の工匠たちの積極的な洋風建造物への取り組みが感じられる。

考古・民俗資料などの収蔵品の多くは、地元の方々からの寄贈によるもので、郷土館の名にふさわしく、郷土を愛する人々の温かい気持ちがあるに存在する。これまでも、多くの小中学生が郷土の歴史学習のため、同館を訪れている。岡崎の今しか知らない子供たちに、大正時代の和洋折衷の建物と多くの所蔵品が、岡崎が誇る偉大な歴史を語りかけている。



▲ 旧額田郡物産陳列所



▲ 特徴的な四ツ葉のクローバー型の花窓

ふれあい

一冊の本

竜海中学校

平川 誠

今年度、中学の教員としてスタートを切った私にとって、担任したA男は特に注意を引く子供だった。

授業中はすきを見せると寝ているか、本を読んでいるという有り様であった。掃除中は担当場所にいるのがせいぜいで、注意しても、もちろん担任の私の言うことは無視であった。

クラスがスタートして授業が軌道に乗り始めたころ、いつものように勝手に本を読み始めたA男に、今日こそ強く指導をしようと近づいた。A男は本に夢中なのか、隠そうともしない。その歴史の本をのぞき込んだとき、私は自分と趣味が合うかと直感した。それからはA男を私は肯定的に見るようになっていった。

「おまえは自分の信じたことを最後までやり抜くだけのパワーがある。」

と、機会あるごとにA男を励ました。

家庭訪問では、A男を心配している母親に対して、A男は心配ないと自信を持って話をした。

私の見方が変わるのに気がついたのか、あまのじゃくのA男に変化が出てきた。

一学期になると、A男は別人のようになつていった。掃除もまじめに行い、授業も前向きなA男の姿が、今の教室にはある。

一冊の本が、私にA男の見方を変えてくれたからである。



同師行弟

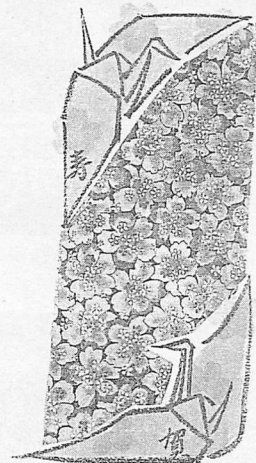
その一言

井田小学校

丹羽 郁人

中学校三年生は、最も多感な時期であり、思いっきり泣いたり、笑ったり出来る時期です。そんなとき出会ったのが、同級生のシゲとベムでした。

他の子がテレビ漫画を見ているとき、我々は名古屋にフランス映画を見に行きました。「天井桟敷の人々」とか「旅芸人の記録」とか、大人が見ても難しい作品を見ては、よく語ったものでした。文化祭では、クラスの自主コーラスを発表するんだと、ステージを占拠し、乱闘騒ぎまで巻き起こしました。クラス対抗の種目があると聞けば、あらゆる作戦を立てました。卒業式



には、長い垂れ幕を三階から垂らしました。その中心にはいつも我々三人組がいたのです。

「また、おまえらか」。そのときは、随分迷惑をお掛けしたのですが、担任の柴田修一先生は、半ばあきらめかけた顔でいつも許してくれたのを、今でもはつきり覚えていいます。

何年かたった同級会の席で「おまえらみたいな骨のある奴が、少なくなつてなあ」と語られた先生のその一言が、今の自分の支えになっています。

ユニークさを忘れずに

前河合中学校長

柴田 修一

「ニワピン、シゲ、ベム」の名を聞くと、甲山中勤務時代を懐かしく思い出します。

あなたは、新校舎が完成し

て内外ともに安定期に入っていた時、三年九組の担任で学年副主任の時の生徒でした。何をやるにもベストを尽くす、負けず嫌いなクラスで、質実剛健を校訓とした甲山中の伝統を受け継いだ三羽ガラスの一人のあなたは、そのリーダー的存在でした。気骨があり女子生徒にも「丹羽君、丹羽君」ととても人気があり、ジョークも巧みで、ユニークさを持ち、アイデアマンでもありました。

大学卒業後どうしたかと思つていましたが、福岡中学校の研究発表会で、とてもユニークな授業をしているのを見て、中学校時代の片鱗がかいま見られ、立派な国語の教師になつているのをとてもうれしく思いました。また、現在は国語の世話係の仕事をしていることや、結婚して充実した生活を送っていることを聞くにつけても、あなたは、岡崎の教育界でさらに大きく羽ばたくことでしょう。今後ユニークさを忘れず、全力投球してください。

お知らせ



◆第二十六回岡崎市小中学生

作文コンクール

最優秀賞

北野小六年 雑賀 龍彦

東海中二年 伊藤真希子

優秀賞

本宿小一年 細野 朱里

小豆坂小三年 山田 航平

六ツ美北中一年 緒方 涼子

矢作中三年 小森 郁子

◆第四十一回岡崎市中学生英語スピーチフェスティバル

入賞

南 中二年 小椋俊太郎

竜海中二年 山本智恵子

城北中二年 石井 淳

河合中二年 畔柳 美香

附属中二年 山田 麻里

竜海中三年 平野 友喬

東海中三年 河合 裕香

矢作中二年 澤田 美礼

矢作北中三年 真鍋 理絵

附属中三年 加藤 蓉子

◆第三十三回愛知県教育研究論文

個人研究の部

優秀 根石小 平野 泉

佳作 城北中 三浦 潤一

緑丘小 川村 正子

広幡小 香川 哲範

岩津小 中野渡妙子

◆平成十一年度日本学校視聴覚教育表彰

最優秀賞

阪本越郎・波多野完治賞

竜美丘小 桑木富士子

◆第十六回明るく社会づくり

岡崎地区実践体験文

中日新聞本社賞

六ツ美北部小 中西 勉

◆日本初等理科教育研究会研究要論文

優良賞

連尺小 安藤 直哉

◆第七回音楽教育のためのマ

ルメディア活用コンク

ル

文部大臣奨励賞

城北中 安立 賢介

◆平成十一年度岡崎市ごみ減

量運動推進事業絵画作品展

市長賞

本宿小四年 森下 園子

市議会議長賞

中山小四年 沢田 翔平

廃棄物減量等推進審議会長賞

教育委員会賞

観光協会賞

梅園小六年 山本奈都美

◆平成十一年度岡崎市健康優

良児童生徒

南 中三年 洗川 将悟

はじめ一二四名

◆平成十一年度岡崎市よい歯

の児童生徒

三島小六年 清水 彩

はじめ一二四名

◆全日本びわ湖クロスカント

リー大会

男子三千M優勝

常磐中三年 鷲見 知彦

◆平成十一年度西三河バスケ

ットボール総合選手権大会

男子優勝 竜海中学校

女子優勝 竜海中学校

◆平成十一年度岡崎市民柔道

大会(優勝のみ)

中学校男子の部

甲山中一年 神谷 智彦

矢作中二年 浜田 朗任

竜南中三年 太田 陽介

中学校女子の部

矢作中一年 森智 恵子

矢作中二年 寺本 弥生

六ツ美北中二年 森沙 弥香

◆第十二回全日本小学生相撲

優勝大会

二位 男川小四年 青山貴昭

◆第七回全国中学校駅伝大会

第二十八位 六ツ美北中学校

◆第十四回NTTふれあいト

ーク大賞

・小中学生の部

準グランプリ

竜美丘小二年 木下ゆり子

◆平成十一年度国際協力に関

する作文コンクール

貯金局長賞

竜海中一年 川口 敦子

国際ボランティア貯金普及協

会理事賞

竜海中学校 羽根小学校

佳作 緑丘小 川村 正子

梅園小六年 山本奈都美



▲岡崎市小中学生作文コンクール表彰式一福社会館

・カ
ツ
ト

葵
中
小
林
義
和

フォト・ヒストリー 岡崎の教育

尋常科卒業生

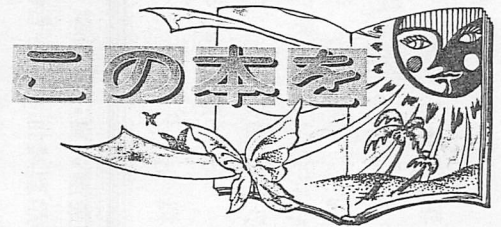
(明治44年)



写真提供 秦梨小

約九十年前の卒業式の写真である。記録によると、この年、秦梨尋常高等小学校尋常科は男子十六名、女子六名の卒業生を送り出している。

まだ洋服は一般的なものでなく、着物と袴であった。男子は学生帽子をかぶり、女子の中には「立輪(たちわ)」と呼ばれる、牛若丸の絵に見られるようなまげを結っている子もいる。履物は、わらじ、草履、げたが見られるが、まだ靴を履いている子はいなかった。学校職員も、校長は洋服で、他の職員や村長は、着物もしくは詰め襟を着ている。



- * 教師生きるヒント 関根 正明 ¥1500
学事出版
- * 古文書返却の旅 網野 善彦 ¥600
中公新社
- * 殺意をえがく子どもたち 三沢 直子 ¥1500
学陽書房
- * 忘れえぬ言葉 三浦 綾子 ¥438
小学館文庫

- * 定番の源流 竹地 祐治 ¥1600
Soho出版

かつて、CBCラジオに「おはよう竹地祐治です」という番組があった。毎朝の通勤時、カーラジオで聞くのを楽しみにしていた人もいたであろう。

その中で、筆者が語るロングセラーブランドの語りは絶品であった。筆者の取材の仕方、着眼点が実に新鮮で、身の回りの品々にまつわるドラマチックな話は、興味が尽きなかった。

ラジオの中から飛び出した「とっておきの話」は、筆者の新鮮な発想に満ちあふれている。

欧米文化の波が緩やかに押し寄せつつある、山の学校の卒業式。着物に学生帽子姿の男子や、立輪を結った女子の卒業生の顔は、りりしく希望に満ちあふれて見える。今年の卒業生たちも残り少ない学校生活を充実させ、夢に向かって大きく羽ばたいてほしい。

シオ

シベリア気団が厳しい寒さをもたらしている。冷たさに痛みさえも感じるような北風の中、運動場を元気に駆け回る子供たち。降雪を待ち望み、心を躍らせる子供たち。冬の寒さをものともせず、元氣よく遊ぶ姿に、大人にはない強さを感じる。

スア

アナログという言葉をふいに思い起こさせる静かな展示室内。幾多の変遷を経て今は静かな余生を送っている。随所に当時の匠たちの創意と工夫が施され、今では味わうことのない技をかいま見ることがができる。歴史の生き証人としていつまでも大切にしたい。

角水を突いて事実関係を明らかにする林さん。より正しく、より公平に市民の声にこたえるため、熱き心を注ぐ。行政相談委員の鋭いまなざしの向こうは、とてつもなく広く温かい。林さんたち行政相談委員が、私たちの生活をそっと支えてくれている。